

創造同窓会会長・副会長による座談会



昨年の総会で、創造同窓会は役員を一新し、新しいスタートを切りました。今回は会長と副会長にお集まりいただき、これからの同窓会運営に対する思いを語って頂きました。

●今後、同窓会をどうしていきたいですか？

田村会長(以下 田村)：まだまだ若い同窓会なので、どうしても大学に依存している部分が多くなっています。早く同窓会としてしっかり自立させなければと思いますね。また、総会や新しい企画などの内容は上の役員で決めていることが多いので、若い役員にも積極的に意見してもらい、幅広い意見

見を同窓会の運営に取り入れていかなければならないと思っています。
大羽副会長(以下 大羽)：現在、同窓会の主な行事は総会の開催と学祭での同窓会ブース出店ですが、毎回、同じ方の参加が多いように感じます。もちろん仕事の都合や自宅からの距離の問題はあるかと思いますが、昔と比べて県内出身の同窓生が多いので、一人でも参加者が増えるよう、内容の見直しも必要だと思います。また、お子様が大学受験に近づいている同窓生もいると思います。同窓生の子供は入学金を免除するなどの優遇制度の必要性を大学と話し合う時期がきているのではないのでしょうか。
渡辺副会長(以下 渡辺)：現在、理学療法学科卒業の同窓生で「豊橋創造大学理学療法研究会」を運営しており、外部から講師をお呼びして知識を深める勉強会を年2回開催しています。毎回多くの出席があるので、ある意味この会が理学卒業生だけの同窓会にもなっています。今後、総会のある年は、研究会の日程を総会開催日に合わせ、総会への参加を促し、創造同窓会として全学部が一枚岩となるよう協力していきたいですね。

●今後、実現させたい企画案はありますか？

田村：理学療法研究会での勉強会がとてもすばらしい活動だと思います。まさに発起人である渡辺副会長のご尽力の賜物です。経営卒や看護卒の同窓生を対象とした講演会、勉強会も開催していかなければと思います。経営に至っては、起業されている同窓生に講師をお願いした講演会を開催しても面白いと思いますね。

渡辺：以前、総会の企画で同窓生同士の名刺交換会がありました。以前より同窓生も多いので、もう一度開催したいですね。次回は異業種交流会にして、営業マンがクリニック勤務の理学療法士や看護師と仕事につながる交流をするとか、逆にクリニックを開

業したい方がいれば、起業された方に経営のアドバイスを受けるとか、また、医療現場に従事している理学療法士と看護師がお互いの知識を共有するなど、同窓生同士の新しいネットワークを形成する機会になればよいと思います。

大羽：社会に出て、学生の頃しっかり授業を聞いておけば今の仕事にもっと役立つ知識が身に付いたのではないかと、あの科目をもう一度勉強し直したい、と考えている同窓生は多いと思います。そういった同窓生を対象にした特別講義があれば、皆さん関心を持つと思いますし、同窓生と大学をもう一度繋ぐ良いきっかけにもなると思います。

田村：今だからこそ大学の講義をもう一度受けたいという気持ちは私自身も強く思っています。是非大学にご協力をお願いし実現させていきたいですね。さらに同窓会としては、各方面で活躍されている同窓生を講師に招いた講演会なども企画していければ良いと考えています。また、2年ごとの総会は同窓生全員に向けて参加を呼び掛けていますが、例えば経営、理学、看護と、その回のテーマを決め、テーマに沿った講演会など、企画を交え開催すれば、そのテーマに興味を持った方が多く集まり、ただ漠然と参加するのではなく、内容の濃い総会になると思います。

●同窓会員へ向けてのメッセージ

田村：今までは経営、理学、看護と出身学部が違くと交流の機会がほとんどなく、他学部の活動がどういったものかも知らないと思います。しかし我々には創造大出身という大きな共通の土台があります。まだまだ人数も少なく若い同窓会なので、これからは卒業期を超え、学部を超えた隔たりのない同窓会にしていきたいと考えておりますので、会員の皆さまには何卒ご協力をよろしくお願い申し上げます。

●取材を終えて

田村会長、大羽副会長、渡辺副会長の三名とも、同窓会は同窓会員の活躍をサポートするための存在でなければならないと、共通の考えをお持ちでした。今後の同窓会の活動に大きな期待が生まれた座談会だったと思います。皆さんお忙しい中ご参加いただきありがとうございました。また、会員の皆さまも積極的に同窓会行事へ参加し、同窓会を盛り上げていただきたいと思います。

(取材：菅沼 真)

※約2時間に亘る座談会でしたが、紙面の都合上、話された内容を抜粋して掲載させていただきました。

平成29年度 創造同窓会 会計報告

■ 収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 引 増 減	備 考
入 会 金	2,000,000	1,640,000	△ 360,000	29年度生@10,000×164名
寄付金収入	100,000	0	△ 100,000	
預 金 利 子	0	0	0	
雑 収 入	500,000	260,000	△ 240,000	第9回総会会費(73名分)
前年度繰越金	2,610,168	2,610,168	0	
計	5,210,168	4,510,168	△ 700,000	

■ 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 引 増 減	備 考
I 運営費	1,080,000	968,335	111,665	
会 議 費	10,000	4,966	5,034	役員会お茶代
通 信 費	500,000	449,366	50,634	第9回総会、同窓会ブース出展案内等
印 刷 費	400,000	478,201	△ 78,201	第9回総会、同窓会ブース出展案内等
消 耗 品 費	20,000	0	20,000	宛名ラベル等
備 品 費	100,000	13,824	86,176	同窓会ブース備品
慶 弔 費	50,000	21,978	28,022	生花代

科 目	予 算 額	決 算 額	差 引 増 減	備 考
II 事業費	2,560,000	1,448,153	1,111,847	
行 事 費	1,500,000	952,212	547,788	第9回総会、同窓会ブース費用等
会 誌 発 行 費	300,000	216,000	84,000	同窓会報発行費
記 念 品 費	200,000	155,401	44,599	卒業記念品(学位記ファイル)
諸 会 合 費	200,000	105,540	94,460	役員会合費
旅 費	10,000	0	10,000	
支 部 助 成 費	100,000	0	100,000	
交 通 費	50,000	19,000	31,000	同窓会ブース役員交通費等
特 別 功 労 費	100,000	0	100,000	
雑 費	200,000	0	200,000	
III 特別基金積立	500,000	0	500,000	
特別基金積立	500,000	0	500,000	
IV 予備費	1,070,168	0	1,070,168	
予 備 費	1,070,168	0	1,070,168	
計	5,210,168	2,416,488	2,793,680	

収入総額計	4,510,168			
支出総額計	2,416,488			11,098,562
差引残額	2,093,680	(次年度繰越)		886
			本年度預金額	0
			現在額	11,099,448

Sozo Now!

大学の近況や同窓生まで幅広く紹介

今回ご紹介する同窓生は、理学療法学科卒業の野嶋治さん(12回生)です。野嶋さんは大学卒業後、整形クリニックへ就職。4年目に創造大大学院へ進学とともに理学療法学科の助手として勤務され、現在は助教としてご活躍されています

●理学療法士を目指したのはなぜですか？

中学、高校と運動部に所属していたので、スポーツトレーナーの仕事に興味がありました。興味のある仕事に就きたかったので高校2年の時には理学療法士になろうと決めていましたね。クラスメイトも何名か目指していたので、その時代の流行りもあったと思います。

●理学療法士はどんな仕事ですか？

リハビリではケガをした方や障害をもった方になるべく元の状態に戻す事を求められますので日々、新しい知識や手技の向上が必要となります。しかし、例えばケガをして今までできていた事ができなくなれば誰も気持ち落ち込みますよね。理学療法士はケガを治すだけが仕事ではなく、患者様の心の支えとなり、患者様と一緒に症状の回復を目指します。その為にコミュニケーション能力を向上させ、人間性を磨き患者様に寄り添う事は、ケガを治すことと同じくらいに大切な仕事だと思っています。

●卒業後の進路は？

大学卒業後は、豊橋市の「はしら整形リハビリクリニック」に就職しました。新規開院だったので、とにかく患者様の数が多くて、私を含め理学療法士がら名在籍していたのですが、毎日忙しかったですね。本来は先輩の理学療法士に教わりながら徐々に治療経験をしていくものだと思いますが、毎日自分で考え、勉強しながら治療していました。おかげで新人ながら自信と手技力が身に付いたと思います。

●教員になろうと思ったのはなぜですか？

就職して三年経った時に、理学療法学科で助手を募集している事を知りました。私は大学生活や授業がとても楽しかったので教える仕事や研究へ興味を持つようになりました。職場には全く不満は無かったのですが、自分の思いを職場に相談し、なんとか承して頂けたので教員の採用



輝く同窓生

野嶋 治さん
(理学療法学科 第2期生)



(取材：菅沼 真)

第17回豊橋創造大学理学療法研究会を開催

平成30年9月30日に第17回豊橋創造大学理学療法研究会を開催しました。今回は臨床福祉専門学校で教員をされている町田志樹先生に「いまさら聞けない解剖学」というテーマでご講演をいただきました。当日は台風接近のため、当初の申し込みよりも4割ほど少ない43名の参加となってしまいました。時間の関係で一部内容を変更したため、残念ながらお話いただけなかった内容もありましたが、凝縮された非常に満足度の高い研究会となりました。今回は台風による交通機関の影響で参加できなかった会員もいましたので、町田先生には運動器分科会などでまた講演をお願いできたらと考えています。会員の皆様はぜひ今後も研究会・分科会にご参加ください。

豊橋創造大学理学療法研究会 副会長 野嶋 治
(理学療法学科 第2期生)

お世話になったあの方よりメッセージ

リハビリテーション学部の頃より理学療法学科の学科長として在籍され、多くの学生がお世話になりました。今年、定年退職された清水先生から卒業生へメッセージを頂戴しました。

卒業生の皆様、いかがお過ごしですか？きっと、ご活躍のことと祈念しています。都立府中リハ学院卒業後に4年の臨床の後は専門学校、2つの私大にほぼ10年ごとに所属しました。気がつくとも1200人を超す教え子がPTとして活躍してくれていることは、老骨の何よりの誇りとするところです。今年、66歳を目の前にして定年退職し、現在福祉施設の理事、施設長として教育から離れた場所で、健常高齢者の健康維持増進、フレイル状態の日常生活援助、認知症高齢者・高齢障害者の看取りをもっばらとして、リハ専門職の可能性を模索する充実感満載の日々を過ごしています。一方で、リハが単に病院、施設の治療と陳腐化されたものではないことを再度諸君に突き詰めてみたいとは思いますが、…紙面が付きました。本来的なリハの意味を、時に再考、実践できる場所を得たように思います。卒業生の皆様も、今一度、多忙の臨床の中でもリハ・マインドを深化させてください。

清水 和彦 先生

名誉教授
元 保健医療学部理学療法学科 学科長